

先生へのインタビュー

～防災情報を共有して、
安全な学校づくりを～

狛江第五小学校
主幹教諭
宮島 誠 先生



Q 年に何回、どのような訓練を行っていますか？

A 夏休みを除く年11回、様々な災害を想定して行っています。生活指導部会が月ごとの避難訓練の詳細な計画を設定し、地震や火災、不審者侵入などを想定した訓練を行っています。児童の発達の段階に合わせて、様々な訓練や指導を積み重ねています。

Q コロナ禍で変わった点や工夫している点がありますか？

A コロナ禍前は、校庭まで避難をして、校長先生から全校児童に指導をしていました。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、廊下までの避難を行い、その後教室に戻って各担任が児童に指導をしています。

Q 教職員の役割分担や、地域との関わりはありますか？

A 災害時は、担任以外にも、アレルギー対応用のエピペン[®]や携帯電話などを持ち出したり、学校内に残っている児童の確認や引率を分担して行ったりすることになっています。地域との関わりとしては、狛江消防署とともに訓練をしたり、引き取り訓練や集団下校などを地域や家庭と協力して行ったりしています。また、地域の防災訓練に教職員が参加したりもしています。

※アナフィラキシーショックが起きた際に使用し、医師の治療を受けるまでの間、症状の進行を一時的に緩和するための補助治療剤（注射薬）

命を守る

避難開始

防災頭巾を被り、静かに次の避難指示を待ちます。



整列

今回の訓練では、廊下に整列しました。

子どもたちは「おかしもち」の約束を守り、ハンカチなどを口に当てています。

日頃から災害に備えて命を守る

狛江第五小学校の
避難訓練に密着！

